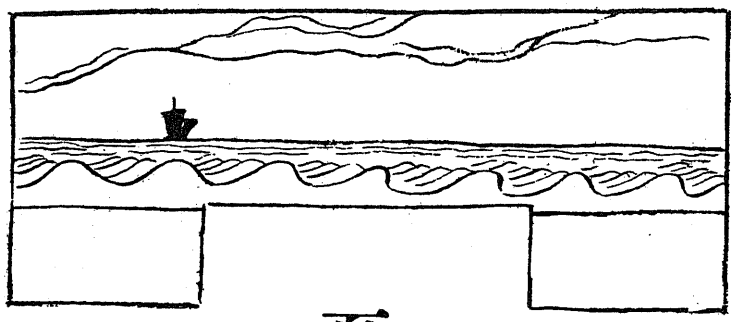

夏

夏咲く草の花

理學博士　本田正次

野に山に、路傍に庭園に、雪を戴く高山の頂に、波打ち寄する海岸の砂地に、夏は到る處に美しい花が咲き滿ちて居ます。今それらの草花に就いて少しばかり御話し致しませう。

夏は百合の花の特に綺麗な時です。中でもヤマユリはその花の氣高いこと、香氣の强いことなどで一番でせう。ヤマユリと云ひましても山ばかりでなく、野原にも澤山生えて居ます。雪の樣に眞白い大きな花瓣が思ひきつて廣くひろがり、その內面は黃赤色の斑點で飾られ、一莖に數花、多い時は十數花も開くことがありまして實に見事なものであります。地下に丸い大きな鱗莖がありまして、これを食用にするので料理百合と云ふこともあります。又エイザンユリ、ホウライジユリ、ヨシノユリ等と呼ばれる事もある樣です。山や野原から掘つて來て、庭に移し植えてもよく育ちます。夕涼の時に眞白い花が闇に浮んで居るのを眺めるにも涼味があつて氣持ちのよいものです。

赤い花ではオニユリがあります。これも勿論山や野原に自生があります

が、矢張り花を眺める爲によく庭に植えられて居るのを見ます。莖に白い綿の樣な毛が生えて居たり、葉のつけ根に珠芽が出來たりするので、花がなくてもヤマユリと容易く區別が出來ます。花は黃色で紫黑の點があり、これも數箇から十數箇位、下向きに開きます。花瓣はよくそり反つて丁度丸い輪籠の樣な恰好となります。地下の鱗莖を矢張り食用と致します。

オニユリによく似たものでコオニユリと云ふものが山に生えて居ます。オニユリよりも葉が狹く、又珠芽が出來ないので區別されます。花はオニユリと同樣に赤黃色の美しいものです。あまり人に知られて居ませんが、オニユリに比して優しみが多いので庭に移し植ゑたらと思ひます。

海濱に生ずるスカシユリも黃赤色の立派な花を開きます。砂濱にも生えて居ますが、又岩上、斷崖などの際ごい所にも生えて居るので、ィハユリと呼ばれることもあります。海岸植物の常として葉に光澤があり、花瓣の基部が狹くなつて居て、お隣同志の間に隙間が見えるので、こんな名前がついたのです。園藝的の變種もなかなか多い樣です。

東京の附近では餘り見られませんが、信州から西の方の山へ行くと、ササユリと稱する桃色の花を開く優しい百合が澤山生えて居ます。この花の瓣にはヤマユリやオニユリにある樣な斑點がなく、全部一樣な桃色です。花も大きく、一二輪俯向き加減に開く樣は又とない風情があります。

ササユリに似て幾分小さい種類にヒメササユリと云ふものがあり。會津地方の山などに生えて居ますが、ササユリよりも一層優しい美しい花だと思ひます。よく東京の花屋にはこれが切花として出て居る樣であります。

今度は少し高山に登つて見ますとクルマユリと云ふものが見られます。東北地方から北海道、樺太、千島などでは、左程高い山でなくても、普通の山、或は平地にも生えて居ます。葉が一節から何枚も車の輪の樣になつて出て居るから、車百合と云ふのです。花はオニユリ、コオニユリ、スカシユリ抔と同じ赤黃色で、之に暗紫色の斑點があります。

白山、立山、八ヶ岳、木曾駒ヶ岳、御岳、白馬山などの高山に登つて見ると、そこの御花畑の一部に有名なクロユ

リが咲いて居ます。北海道などでは平地に生えて居ますが、先づクロユリと云へば珍奇な高山植物として人々から考へられて居る樣です。車百合の樣に葉は三枚から五枚位輪生し、高さ三十糎内外の莖の頂に一二箇の小さい花を横向き又は下向きに開く。花の本當の色は帶紫褐色で、決して名前から想像される程眞黑のことはないが、他の百合の種類の樣に派手な色でなく、なかなか澁い味のあるものです。植物分類學上から申しましても、今迄述べた百合の種類とか聊か趣を異にして居ます。

ノクワンザウ、ヤブクワンザウなどゝ云ふものが山野に自生して居て、百合の花に似た黃褐色又は赤褐色の花を開き、前者は單瓣ですが後者は八重咲きです。ヤブクワンザウの若い芽を早春摘み取つて食べることがあります。

ギバウシの種類もユリ科に屬し、夏の日に紫色の美しい花を開きます。タウギバウシ、ミヅギバウシ、スヂギバウシ等の種類があつて、葉も花も觀賞用として價値があるのでよく庭に植ゑられます。

キミカゲサウ一名スズランもユリ科に屬する優しい草で、恐らく知らぬ人のない程有名な花です。本州中部地方から北にある山麓の原野等に一面に自生して居て、六月頃花の咲き揃つた時に、そこを通ると何とも云へぬ佳香がただよつて來ます。こんなにまで皆さんから愛される花が實は有毒植物の一つであるとは一寸驚くではありませんか。

次はユリ科以外の草花に就いてお話し致しませう。夕方河原などを散歩しますと、マツヨヒグサやオホマツヨヒグサの黃色い花が一面に咲いて居て大變綺麗でせう。これは日沒後でなければ開かぬと云ふ花ですから、夏の夕涼の觀賞には誂向きの花です。宵を待つて開くので待宵草又は宵待草と呼ばれるのですが、これを俗に月見草と云ふのはよくないのです。本當の月見草と云ふものは、これに姿は似て居ますが、花の色が白くて、決してこれの樣に黃色いものではありません。そしてこれの樣に河原等にひとりでに生えて居るといふことは殆どなく、皆園藝品として栽培されて居るものですから、間違へない樣にして下さい。何れにしても、是れ等待宵草の種類は、最初から日本に生えて

居た植物ではなく、皆アメリカ原産の植物ばかりです。それが明治の初、アメリカとの交通が盛になる樣になつてから、我國に傳はつて、今では前記の樣に河原は勿論、路傍、原野など、どんな荒地にでも繁殖して居て、我々日本人と大變親しくなつて居り、我々は皆待宵草を可愛がつて居ます。日米親善、友邦愛などゝいふ事は、こんな所にまで現はれて居るのです。

秋の七草の一つにかぞへられて居るナデシコも、本當は夏の暑い盛りに咲くものです。これも河原等に多いからカハラナデシコとも稱します。又よく大和撫子とも云はれて日本の若き女性の象徴とされて居ることは皆さんよく御存知の事です。大和撫子とは同じ種類に屬する西洋のカーネーション、支那のセキチク等と區別する爲の言葉であつて、カーネーションやセキチク等に比べて、我國の野生のナデシコが如何に氣高き氣品を具へ、且つ優美を示して居るかは説明するまでもありますまい。

ナデシコ科に屬する草にフシグロセンノウといふのが山野に自生して居ます。これも夏の草花としては美しいものの一つで、高さ六〇乃至九〇糎位の直立した莖の先端に、大きな朱赤色の五瓣の花を開きます。

夏といへばどうしても水邊が戀しくなります。水邊又は水中に咲く草花を少し探ねて見ませう。水中に咲く花の女王としては形から云つてもハスといふことになりませうが、私はヒツジグサ即ち睡蓮の花の美しく、可憐なのを好みます。カハホネの黄色い花も風情がないではありませんが、優しさがない樣です。ジュンサイの花は小さくてあまり人眼につきません。

リンダウ科に屬する水草にアサザとガガブタといふ二種があります。アサザは一見ジュンサイに似て居り、花瓣の緣が絲の樣に細く裂けた黄色い美しい花を開くので一名ハナジュンサイと呼ばれることもあります。ガガブタは花の色が白く、花冠が内面が僅かに淡黄色を呈して居ます。

オモダカ科に屬するオモダカ、サジオモダカ、ヘラオモダカ、マルバオモダカ、アギナシ、クワヰ、ウリカハ等の

花も夏から初秋にかけて、池沼、水田等の中に見られます。皆白色三瓣の小さい花で水中から直立した花莖の先端に枝をさして咲いて居るのを見ます。

トチカガミ科のトチカガミやミヅオホバコの花もよく同じ樣な場所にこの頃見受けます。イボクサの紅色の花、コナギ、ミヅアフヒの紫色の花も水邊で可愛いものです。八月頃になると矢張り水邊にミソハギと云つて高さ一米以上になる直立した草に紫紅色の美しい花が長い穗をなして開きますが、よく盂蘭盆の時に切つて佛樣に供へるので、所によつては盆花と云つたり、精靈花と云つたりして居ます。ラン科の植物でミヅチドリと云ふ草も夏に白い花を穗をなして開きます。名前の通り、濕つた原野に生えて居るものです。花に多少佳香があるのでジャカウチドリとも云ひます。矢張りラン科の白い花を開くものにサギサウと云ふものがあつて、山間の水田や濕地に生えて居ます。花瓣の緣が細く裂けて、丁度白鷺が舞つて居る樣に見えるので、非常に上品で美しい花です。水盤などに植ゑると夏の涼味を添へる觀賞用としては最上のものとなりませう。

今度は水邊を離れて少し野原の雜草を調べて見ませう。蔓性のものではヒルガホ、コヒルガホ等の淡紅色の花がよく開いて居ます。この類に海岸の砂地にはハマヒルガホと云ふのがあつて、あちこちを美しく彩つて居ます。到る所の山野にはホタルブクロと云ふ鐘形の淡紅色の花を下向きに開く草があります。原野にはコマツナギと云つてハギに似た小さいマメ科の植物が生えて居て、可愛らしい紅紫色の花をつけて居ます。小さい割には根がなかなかしつかりして居るので、駒でも繫ぎとめるに足るといふ所から附けられた名でありませう。其の他マメ科のものではニハフヂ、メドハギ、ネコハギ、イヌハギ、タンキリマメ、イタチササゲ、クララ、フヂカンザウ、ヌスビトハギ、クサフヂ、タニワタシ等色とりどりの花が開きますが、普通のハギも八月頃になつて秋が近づいて來ると美しい花を開き始めます。

心ゆくまでに大自然に親しみつゝ、自然にはぐゝまれた美しい草花を觀察し、採集するのに夏はその最も好適の時期でありませう。